

「家庭基礎」学習指導案 ( ) 高等学校 第 1 学年 組 ( 名)		
単元	経済生活を営む	使用教科書 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)
指導の立場	<p><b>【教材観】</b> 消費者教育推進法の施行により、さらなる消費者のスキルアップが求められている。「消費者→保護される」という認識は変化し、社会の一員として行動することが求められるようになった。これから生きていく生徒達も、自分が消費者としての責任をもつことや、自分の消費行動が社会に影響を及ぼすことを理解する必要がある。そのためにはまず、消費者としての自覚と契約に関する基礎的な知識を確実にすることが必要である。</p> <p><b>【生徒観】</b> 2022年、19歳になる直前に「18歳成年」が実施される学年の生徒たちである。既習単元である「自分らしい人生をつくる」においても、自分たちの成人式を気にする様子が多く見られた。一方で、高額な契約ができるようになることや、契約の取消し権がなくなることを知っている生徒はいない。消費者としての自覚がある、リスクマネジメントができるなど、社会の一員として消費生活を送る基礎が身につけているとはいえない現状がある。</p> <p><b>【指導観】</b> 成年年齢引き下げは、消費者の立場としても大きな変化である。社会の変化が自身の将来に影響を及ぼす可能性を知ることで、消費者として自覚を持つ必要性を理解させたい。そこで、前単元で作成した人生すごろくを教材として使用することで当事者意識を育む。また、これまでの18・19歳よりも責任の重い18・19歳になることを認識させることで、今後の消費生活分野の学習に対する意識を高めたい。</p>	
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定の重要性を理解し、消費者として適切な判断ができる。</li> <li>経済の仕組みを理解し、金銭管理およびリスクマネジメントの重要性を認識する。</li> <li>社会の変化に伴う消費構造の複雑化を認識し、社会の一員として活動する必要性を理解する。</li> </ul>	

#### 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
消費行動と意思決定、経済の計画、望ましい消費者のあり方などに関心を持ち、意欲を持って学習に取り組んでいる。	消費生活についての課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	自立した消費者として消費行動を選択する技術を身に付けている。	消費行動と意思決定、経済の計画、望ましい消費者のあり方などについて理解し、社会の一員として責任を持って行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

単元の指導計画及び評価規準

時数	主な指導内容・ 学習内容	評価規準	評価の観点				評価方法
			関	思	技	知	
1 (本時)	生涯と契約 18歳成年でできること・ できないこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の生涯と消費者としての立場の変化を関連づけて理解している。</li> <li>契約の基本および原則を正しく理解している。</li> </ul>				○	ポートフォリオ
1	家計のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計管理について、生涯設計とともに見通しを持つことができている。</li> <li>家計に潜むリスク・キャッシュレス社会に想定されるリスクについて、適切な対応を理解している。</li> </ul>		○		○	ポートフォリオ
1	販売方法と契約	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入場面において、情報を収集・整理することができる。</li> <li>買い物におけるリスクマネジメントの重要性を理解している。</li> </ul>			○	○	ワークシート ポートフォリオ
1	消費トラブルと保護制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題の被害の防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりしている。</li> </ul>		○			ロールプレイング発表 ポートフォリオ
2	これからの消費生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活と社会とのつながりに関心を持ち、消費者市民社会の一員として行動しようとしている。</li> </ul>	○				ポートフォリオ

本 時 案

主題		18歳成年でできること・できないこと		
本時の目標		・成年年齢の引き下げにより、責任の重い18・19歳になることを知る。【知識・理解】		
	学習活動	指導上の留意点	時間	評価及び備考
導入	1 本時の学習内容を知る	○本時は成年年齢引き下げとそれにより起こる生活の変化について考えることを知らせる。	5	ポートフォリオ
	2 18歳でできること・できないことを知る	○18・19歳の時に様々な権利や責任が変化することを理解させる。 ・高額な契約ができるようになること・未成年者契約の取消し権が適用外になることを知らせる。	10	ワークシート  <引用> 政府広報オンライン「18歳から大人に、成年年齢引き下げで変わることに、変わらないこと」
展開	3 契約について学ぶ	○「社会への扉」を使い、契約に関する基礎的な知識を学ぶ。 ・中学までに学習した内容を復習する。 ・『契約自由の原則』について確認し、契約に対する法的な捉え方を理解させる。	15	社会への扉 p 1～4
	4 人生すごろくを見直す	○自分が書いた人生すごろくを契約の視点から見直す。 ・お金の動きに着目させ、契約に該当するものに色マーカーを引かせる。 ・18歳以降、被害者にも加害者にもなる可能性を認識させる。 ・他者のものを見て、視野を広げさせる。	15	人生すごろく（各自作成済のもの）  ワークシート

まとめ	5 本時のまとめをする	<p>○社会の変化に伴い、より責任の重い18・19歳になることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を自分の言葉でまとめさせる。</li> <li>・次時以降消費生活について詳しく学ぶことを伝える。</li> </ul>	5	ポートフォリオ <b>【知識・理解】</b>
-----	-------------	---	---	---------------------------

本時の評価

本時の学習活動に即した 評価規準	おおむね満足できる状況	評価方法
社会の変化に伴い、消費者としてより強い自覚と知識を身に付ける必要があることを理解している。 <b>【知識・理解】</b>	自身の生涯と社会の変化をふまえて、今後の学習の必要性について記述している。	ポートフォリオ